或は根に円塊を生ずる，此を多未様(タマデ)と呼ぶ，又鬚根を採て，小人蔘と為す，都べて此れ一物にして品を異にするのみ」(以上原漢文) と追加説明して図を載せている。

熊本では村井椿寿が宝暦14年 (1764) に善音堂薬物会を催し，その記録として『熊府薬物会目録』1冊を残した。この中の藩内客品七十有二種中に，矢部医士赤星見淳の出品として直根人参 (矢部犬飼村産) があり，これに椿寿は「コレ和州芳野山産ト異ナル事ナシ」と解説している。本品について，私は九州産トチバニンジンについての知見および上記の諸見解から，直根人参はトチバニンジンが種子から発芽したとき球形や短紡錘形の根ができてかなり肥大することがあるので，トチバニンジンであるとした (薬史学雑誌 21(1) : 41, 1986)。木島 (1986) は『本草図譜総合解説』第一巻で，山本亡羊の朱註に関連して，「現在“芳野人参”“土参”と称する生薬の生産はなくなり市場でこれを見ることはできない。ただ，戦前には“直根人参”と称しトチバニンジンの竹節状根茎の老成部付近の鬚根の 2～3 本が異常に肥大し，径 5 mm から 7～8 mm，長さ約 3～5 cm 程の直根状になったものを採取したものがあった。当時葛城山中から産したもので今はみられない」と註記しているが，江戸時代に芳野人参と呼ばれたものは，これとは異なるようである。 (熊本大学 薬学部附属薬用植物園)

□Sournia, A. : **Atlas du phytoplancton marin. Vol. 1. Cyanophycées, Dictyochophycées, Dinophycées et Raphidophycées** 219 pp., figs. 1-373, 1986. Centre National de la Recherche Scientifique, Paris. fr. 150. フランスで海産植物プランクトン図集の刊行が企画されていると聞いていたが，昨年その第 1 巻が出た。藍藻 4 属，珪質鞭毛藻 1 属，渦鞭毛藻 131 属，およびラフィド藻 (緑色鞭毛藻) 2 属を扱い，各藻綱については一般特徴，分類形質，必要に応じて顕微鏡観察試料作成上の注意等，属については分類上の記載，属の基本種，異名，文献，それに属名の由来等が記述される。巻末には属を代表する種の図と写真 373 が86図版に収められている。最近，海産植物プランクトンは赤潮や貝毒の原因生物としても注目を浴び，わが国でも図集の刊行が進行中である。一足先を越された感が無くもないが，この図集は種の階級の記載を扱っていないので，実際面での利用はかなり限られることになるだろう。このあと，第 2 巻珪藻 (M. Ricard)，第 3 巻緑藻，クリプト藻，ユーグレナ藻，真眼点藻，プラシノ藻，ハプト藻および黄緑藻 (M.-J. Chrétiennot-Dinet) が刊行の予定という。なお本書では，藍藻アイアカシオ属 (*Trichodesmium*) はユレモ属 (*Oscillatoria*)，珪質鞭毛藻の *Distephanus* は *Dictyocha*，ラフィド藻の *Hornellia* は *Chattonella* の異名として扱われている。

(千原光雄)